

## ●考察・提言

本調査結果より、コロナ感染症蔓延が森林とその資源の利活用に携わる関係者に少なからず影響を与えていることが明らかになった。その影響は業種によって異なり、間接的あるいは一過性と言えるものも多かったが、特に観光業への影響は大きく、長期間経営状況が困難であった。観光客が来なければ、収入がないため、ジャングルロジや周辺の森林などは維持管理ができず、荒れていつており、定期的なメンテナンスが必要である。また、政府の財政状況によって活動が停滞するという類のものは経済回復等に因る部分が大きいが、影響が長引く可能性もあると考えられる。そして、地域によっては、都市部を離れて農村部へと移住し、新規就農するという選択肢を選んでいる人たちも少なからずいるという話もあり、そのような現象に対しては、農業が森林伐採圧力につながらないように環境配慮型の持続的農業の導入支援などが望まれる。今後、このような感染症の影響を受けている森林関係者をサポートすることによって、森林保全に資することが期待されるが、本調査では表面的な部分でしか情報を得ることとはできなかったため、以下のような内容において、より詳細な調査を実施することにより具体的・効果的な支援・サポート等を検討していくことができるのではないかとと思われる。

### ① 観光業

今回の調査からエコツアー実施地域において、エコツアーのインフラが劣化している状況が指摘されたが、その影響度は明確にはなっていない。森林資源をエコツアーに活用する為にはインフラは重要であり、エコツアーが盛んな地域を対象として、エコツアー事業者に絞った現状調査を行い、課題等を引き出し、森林保全の支援・サポート策を検討する。

### ② 農業・アグロフォレストリー普及

地域によっては都市部から農村部に移り、アグロフォレストリーなどの農業を始める人が増えている。そのような新規就農者に対するアグロフォレストリーに関する技術指導を支援するような活動や調査事業を行い、アグロフォレストリーの普及と森林保全に貢献する。これに関しては、アグロフォレストリー向けの融資枠が余っているという情報が今回の調査で得られたが、これがどれくらいの規模で停滞しているのか等については明確になっておらず、この点に関しての現状調査を行うことも興味深いと思われる。

トメアスーの遷移型アグロフォレストリー（短期・中期・長期の農作物と樹木を組み合わせることで二次遷移の様相を呈している）はブラジル政府から、社会技術及び法定保全林として認められており、近年ではトメアスー以外の地域（カメター市、モジュー市、マラバー市など）、他州（アマゾン州マニコーレ市、マラニャン州）、他国（ボリビア、ガーナ）へと普及している。各地の農家へのアグロフォレストリーの指導・普及の拡大により、自然環境に配慮した持続可能な営農や多角経営化を図り、人々の生計を向上させ、森林保全を進めていくことに資するものと考ええる。

ちなみに、パラ州政府はアグロフォレストリーの普及を推進しているため、これは州の政策とも合致するものである。また、2021年1月8日に、日本国外務省及びブラジル外務省は、アマゾン地域の生物多様性の持続可能な利用に関する「トメアス協力覚書」を結び、REDD+の促進などの分野における協力の機会を促進しているため、これにも貢献することが期待される。

### ③ 調査・研究、保全活動

政府の財政難によって森林に関する調査研究が停滞していることが指摘された点に関し、具体的な調査研究内容やその規模等も不明であり、また、これを代替するようなことは不可能であるが、何らかの形で森林保全活動に資する調査研究活動への支援・サポートができるようなことが検討できるとは有益ではないかと考える。例えば、団体・NGOの活動の面でも、どのような活動が大手企業等からのサポートを得られているのか、また、活動助成を得ることに苦労している団体・NGOの課題は何なのかということを知り下げて調査し、効果的な支援の在り方を模索する等は有効ではないかと考える。

【参考・添付】

(参考文献)

アマゾンス州政府. 2020.

<http://www.amazonas.am.gov.br/2020/12/governo-do-amazonas-anuncia-medidas-de-restricao-para-conter-avanco-da-covid-19-nas-festividades-de-fim-de-ano/> (cited January 30, 2022)

<https://vacinometro.manaus.am.gov.br/view/> (cited January 30, 2022)

アマゾン国立宇宙研究所 (INPE). 2021. <https://agenciabrasil.ebc.com.br/geral/noticia/2021-11/desmatamento-na-amazonia-legal-tem-aumento-de-2197-em-2021> (cited January 17, 2022).

世界保健機関 (World Health Organization). 2022:

<https://covid19.who.int/region/amro/country/br>,

<https://covid19.who.int/region/amro/country/br> (cited January 8, 2022).

ジエトロ (日本貿易振興機構). 2021.

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2021/12/649fe25dce329269.html> (cited January 12, 2022).

18 ニッケイ新聞. 2021.

<https://www.nikkeishimbun.jp/2021/211030-12brasil.html>

在ブラジル日本国大使館. 2014.

[https://www.belem.br.emb-japan.go.jp/pt/jp/saude/guia\\_belem.pdf](https://www.belem.br.emb-japan.go.jp/pt/jp/saude/guia_belem.pdf)

在マナウス日本国総領事館. 2020.

[https://www.manaus.br.emb-japan.go.jp/tpr\\_ja/11\\_000001\\_00055.html](https://www.manaus.br.emb-japan.go.jp/tpr_ja/11_000001_00055.html)

ブラジル保健省. 2021. <https://covid.saude.gov.br/> (cited January 7, 2022).

パラ州公共保健局. 2022.

<https://www.covid-19.pa.gov.br/#/> (cited January 12, 2022).

<http://www.saude.pa.gov.br/vacinometro/> (cited January 31, 2022)

マラバー商工会議所. 2022.

<http://maraba.pa.leg.br/institucional/maraba/historia>

マリトゥーバ市. 2021.

<https://marituba.pa.gov.br/site/o-municipio/sobre-o-municipio/>

リオグランジドスウ州政府. 2021

<https://estado.rs.gov.br/obrigatoriedade-de-apresentar-comprovante-de-vacinacao-em-atividades-de-alto-risco-para-o-coronavirus-comeca-na-segunda-18> (cited January 30, 2022).

Forest2market. 2020. <https://www.forest2market.com/blog/br/efeitos-do-covid-19-na-industria-florestal-brasileira> (cited January 12, 2022).

Globo.com. 2021. <https://g1.globo.com/pa/para/noticia/2021/12/05/covid-19-prefeitura-atualiza-protocolo-para-realizacao-de-eventos-de-fim-de-ano-em-belem.ghtml> (cited January 12, 2022).

<https://g1.globo.com/saude/coronavirus/noticia/2021/12/03/comprovante-de-vacinacao-covid-capitais.ghtml>. (cited January 30, 2022).

<https://g1.globo.com/am/amazonas/noticia/2020/12/31/amazonas-passa-dos-200-mil-casos-confirmados-de-covid-19.ghtml> (cited January 30, 2022).

<https://g1.globo.com/am/amazonas/noticia/2022/01/18/vacinacao-contra-a-covid-19-no-amazonas-completa-um-ano.ghtml> (cited January 30, 2022).

Globo.com. 2021. Conselho da Amazônia Legal completa dois anos em fevereiro sem cumprir suas principais metas de redução do desmatamento.

<https://extra.globo.com/noticias/brasil/conselho-da-amazonia-legal-completa-dois-anos-em-fevereiro-sem-cumprir-suas-principais-metas-de-reducao-do-desmatamento-rv1-1-25356365.html>. (cited January 19, 2022)

Uol.com. 2022. <https://noticias.uol.com.br/saude/ultimas-noticias/redacao/2022/01/13/responsavel-por-maior-onda-de-covid-e-mortes-variante-gamma-some-do-brasil.htm>

Oliveira, G. A. F. and Lima Santos D.G. F. 2021. Celulose: impactos do covid-19 na exportação e investimentos no complexo portuário de Santos. *XII FATECLOG - gestão da cadeia de suprimentos no agronegócio: desafios e oportunidades no contexto atual*.

Worldmeter. 2022: <https://www.worldometers.info/coronavirus/country/brazil/> (cited January 8, 2022).

|       |                 |
|-------|-----------------|
| ⑤ 性別  | 男性              |
| ⑥ 回答日 | 2021 年 12 月 2 日 |

【インタビュー内容】

- ・小長野氏は現在パラ州農業水産開発局（SEDAP）の小農家部門に属し、トメアスーやモージュなどの小農家に対し自然環境を配慮した火入れをしないアグロフォレストリー農法について指導し、同時に営農上の問題点を抽出し政府に報告している。小農家や政府職員を農場に招き、農業技術を指導している。これまで JICA 事業など様々なプロジェクトに関与し、パラ州以外（アマパー州、アマゾナス州、ガーナ、ボリビア）から訪れた農業技師や農家にもトメアスーでアグロフォレストリーについて指導してきている。また、NGO 団体等と連携しコミュニティを訪れ講演も行っている。
- ・コロナウイルスがブラジルで蔓延する以前（2020 年 2 月）は、政府が小農家を訪れ指導していたが、3 月以降蔓延してからは、ロックダウンにより小農家への訪問が減少し、政府と生産者とのつながりが希薄となった（コロナを口実に訪問していない可能性も）。こうした中でも、小長野氏は SNS ツール（Whatsapp）を利用して様々なコミュニティと連絡を取り、熱意のある生産者にはご自身の農場に来てもらい、農業技術を指導してきている。
- ・銀行では、小農家融資の資金が余っている。融資担当者（公務員）が畑に行けないため融資が進まない。その他の融資担当者（個人営業）とはやり取りが可能だが、コストが高いため、融資をお願いする農家は少ない。
- ・コロナ流行以降、農作物の値段が下落し、小農家の売り上げは減少し、肥料などの農業資材の価格が高騰し（化学肥料代 40,000 円/トン（コロナ前）⇒12,000～14,000 円（流行後））、さらには物価上昇により生活が苦しい状況にある。畑に行く頻度が減少し、手入れ不足で草が繁茂し、肥料も買えないため、コシヨウは黄色くなっている。川沿いに住むアサイー生産者はアサイー果実の値段が悪く、売れないため、収穫したアサイーを捨ててしまっていた。しかしながら、最近のコシヨウもアサイーも値段が上昇してきており、状況は改善しつつある。こうした中で、小長野氏はリスクを防ぐためにも、気候変動や自然環境に配慮した（農地を焼かず、自然を壊さず、煙も出さずに動物・昆虫（ハチなど）・水を大切に）アグロフォレストリーの実践を推進し、コシヨウやアサイー以外にもカカオや様々な木々を植えることの大切さを教えている。
- ・都市部に住んでいる人たちは失業し、食料品も買えず、政府から生活補助金を受給しているが、農家は食べ物に困らない（裏庭などで農作物を栽培していれば）。
- ・慣行農業がコロナ以前は 200,000 円/ha の投資で可能であったのが、流行後は 400,000 円/ha に上がっている。小長野さんのやり方（焼かない農業）では、6000/ha レアルの投資で済む。刈り取った雑草を緑肥として使うなど、コストがかからないようにしている。
- ・スエナガ氏は現在パラ州環境局（SEMMA）に所属している。現在のパラ州農務局長はジョバニ氏

【添付資料】  
（インタビュー調査個票）

インタビュー①  
日時：2021 年 12 月 2（木）、朝 10 時 30 分～12 時  
場所：ACTA  
参加者：小長野氏、林、北村  
方法：リモート会議（Whatsapp を利用）



図. 小長野氏（中央）へのインタビューの様子

|                            |                                         |
|----------------------------|-----------------------------------------|
| ① 調査者氏名                    | 林、北村                                    |
| 回答者氏名                      | 小長野道則                                   |
| 普段の仕事の業種                   | 農業アドバイザー                                |
| 所属名                        | パラ州農業水産開発局（SEDAP）                       |
| 所属先の従業員数                   | -                                       |
| 所属先の業務・活動内容                | 政府機関や NGO 団体と連携しながらアグロフォレストリーの指導・普及を行う。 |
| 職務                         | 代表                                      |
| 所在地（都市名、島名等）               | パラ州トメアスー市                               |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | 農場でアグロフォレストリーを実践し、多種多様な果樹を栽培している。       |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | -                                       |
| ④ 年代が年齢                    | 60 代                                    |

である。

- ・インタビュー対象者として、パラ州森林開発・生物多様性研究所（IDEFLOR）の農業技師ケイラー氏（パラ州マラバー市在住）を紹介いただいた。その他にも、パラ州農業水産開発局のアントニア氏、パラ州農業技術普及公社（EMATER）のドウハラ氏（カスタニヤル在住）、パラ州森林開発・生物多様性研究所の職員（モンチアレグレ在住）、ブラジル農牧研究公社（EMATER）の職員も紹介が可能。

●インタビュー②

日時：2021年12月8日（水）、夜8時～9時20分

参加者：佐藤氏、林、北村

方法：リモート会議（Zoom）を利用



図．佐藤氏（下）へのインタビューの様子

【インタビュー結果】

|          |                    |
|----------|--------------------|
| ① 調査者氏名  | 林、北村               |
| 回答者氏名    | 佐藤卓司               |
| 普段の仕事の業種 | NGO 団体             |
| 所属名      | アマゾン森林友の会（ASFLORA） |
| 所属先の従業員数 | 8 人                |

|                            |                                          |
|----------------------------|------------------------------------------|
| 所属先の業務・活動内容                | 森づくり・苗畑整備・アグロフォレストリー・環境教育の推進、ごみ処理問題の解決   |
| 職務                         | 代表                                       |
| 所在地（都市名、島名等）               | パラ州ベレン圏マリトゥーバ市                           |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | 木材伐採のために、道路が整備されたことで、伐採が加速し、牧場化が進んだ現場を見た |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | パラ州サンフェリックス・ド・シンダー市                      |
| ④ 年代か年齢                    | 74 歳                                     |
| ⑤ 性別                       | 男性                                       |
| ⑥ 回答日                      | 2021 年 12 月 8 日                          |

【佐藤氏からの回答内容】

- ・コロナ感染症が流行る前（2019 年）と比べて、苗木用の種子を集めるために森林へ行く頻度は減少した。アマゾン森林友の会の活動自体には大きな影響はなかったものの、コロナ禍では人集めが大変であった。森林へ行く頻度の増減量は不明。
- ・木材収穫量が増えたか・減ったかどうかはわからないが、木材供給が落ちたところもあるのではないかと。都市部に比べて農村部はコロナの影響はあまり見られない。
- ・森林内で見える人の増減量についてはわからない。

- ・AFFLORA ではパラ州マリトゥーバ市の農業学校の生徒に環境教育や森づくりについて講義と圃場実習を通して指導している。学校近くにあるカカオ公社の職員も 20 年以上にわたり学生に指導している。2020 年 7 月から三菱商事からの活動助成で学校内に実習圃場を設置し、アグロフォレストリーに関心を持ってもらい、環境意識を持った技術者を育成している。コロナ流行後は生徒が学校に登校できなくなり、指導ができなかった。ロックダウン後も学校からの活動に対する正式許可が出ず、各個人の自己責任で、自発的な行動ということで活動を継続した。2020 年 8 月以降は生徒が戻り始め、実習生が熱心に活動を続けた結果、森づくりと実習圃場の設置を行うことができた。見学者も増加し、トウモロコシやバナナなどが収穫できるようになった。ASFLORA は州政府と連携して良好な関係を築いて活動している。以前は、10 年以上宮脇方式で植林を行い、苗木作りや植付けを 20 年以上行ってきたおり、豊富な経験を有している。

- ・マリトゥーバ市にある森を削って作ったゴミ埋立地の周辺で森づくりを指導している。パラ州政府森林開発・生物多様性研究所（IDEFLOR）と連携してブラジルナツノキなどを他樹種と混植しようとしている。



- ・2000 年～2001 年には緑の募金事業でパラ州サンタバルバラ市で地元住民と協力して植林を行い、水源林保全活動を行った。以前はマリトゥバ市では多くの森林があったが、住宅建設プログラムの実施により、自然環境が荒らされ、豊かな森林が失われた。

- ・2020 年にベレンでロックダウンがあり、苗木の様子を職員に見に行かせることはできたが、2 週間ほど活動はできなかった。ロックダウン時には農場の近くに住んでいる人はよいが離れているところに住んでいる人は農場に行くのも大変だった。

- ・コロナの時は他の学校から人を集めて作業をした。2020 年 9 月以降に校長も来てもらえるようになった。コロナ流行後は植樹祭などのイベントを行う際に人集めが大変であった。

- ・ベレン周辺の都市ではパンデミックの間は、農地不動産投資が収まり、森林減少は少なかった。パンデミックが落ち着くと、土地が新しく伐り開かれ森林が減少していった。

- ・違法伐採の取り締まりはリスクが伴い、容易ではない。世界中でアマゾン熱帯林の保全が望まれているが、現場の人たちは生活がかかっているため、そういつてられない。零細農家が持続的に農業ができるように育てていくことが重要である。

- ・AIMEX 加盟企業（木材輸出業協会）の森林プロジェクト担当の方を紹介していただけ。

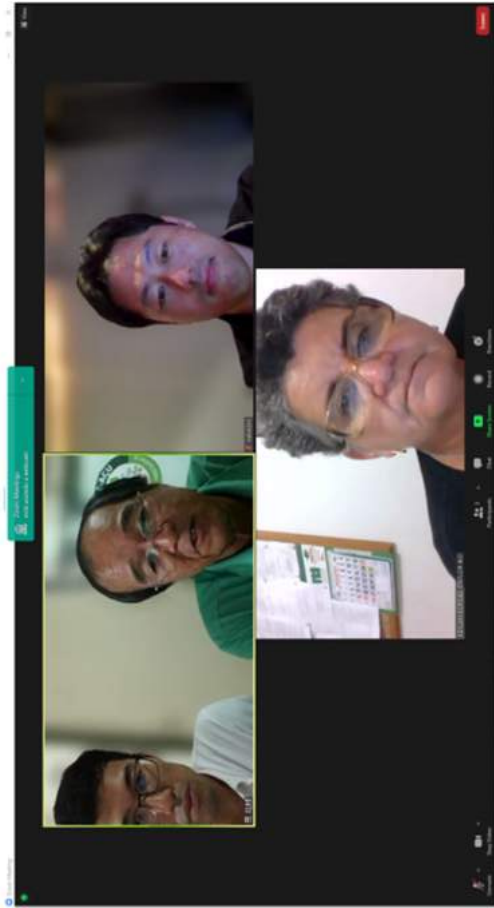
- ・コロナの影響ではないが、パラ州では規制により白材の木材チップが不足している。養鶏業者は木材チップの代わりに床に苛性ソーダをまいているため、被害が発生している。

●インタビュー③

日時：2021 年 12 月 10 日（金）、18 時～19 時 20 分

参加者：ケイラー氏、小長野氏、林、北村

方法：Zoom を利用



図．ケイラー氏（下）へのインタビューの様子

【インタビュー結果】

|                            |                   |
|----------------------------|-------------------|
| ① 調査者氏名                    | 林、北村              |
| 回答者氏名                      | ケイラー・レジーナ・ボルジェス   |
| 普段の仕事の業種                   | 公務員               |
| 所属名                        | パラ州森林開発・生物多様性研究所  |
| 所属先の従業員数                   | —                 |
| 所属先の業務・活動内容                | 小農家にアグロフォレストリーを指導 |
| 職務                         | 地域マネージャー          |
| 所在地（都市名、島名等）               | パラ州マラバー市          |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | —                 |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | —                 |
| ④ 年代か年齢                    | 50 代              |
| ⑤ 性別                       | 女性                |
| ⑥ 回答日                      | 2021 年 12 月 10 日  |

【ケイラー氏からの回答内容】

- 2020 年 3 月以降にコロナが蔓延していたころは、農家の入り口に「訪問お断り」の張り紙があり、小農家を訪ねることができず、大変驚いた。
- 小農家は収穫物を小売店等で販売していたが、コロナ蔓延後は SNS (Whasapp) を利用して、収穫物(キャッサバ、クブアスーなど)をかごに入れて販売するようになった。
- コロナ流行後は肥料や除草剤などの値段が高騰したが、コロナ禍でも農業活動は停滞せず、小農家に ついては経済的な悪影響は見られなかった。
- 都市部から農村部に移住し、農業を始める人が多くみられ、森林伐採が増加した。2020 年は政府の取 締りがほとんどなかったが、2021 年は環境局、軍、IBAMA 等が総出で現地取締強化し、伐採が減少し ている。新規アグロフォレストリー植栽の関心は高く、カカオなどの苗づくりの種子が足りていな い。アグロフォレストリーは森林再生の打開策である。
- IDEFLOR が実施しているプロジェクト (PROSAF) ではアグロフォレストリーの実証圃場 (4ha) を設置 し、講習を行っている。

日時：2021 年 12 月 15 日（水）、10 時～11 時  
参加者：エウソン氏、稲田氏（トメアスー文化農業振興協会専務理事）、北村  
方法：対面

|                                                                                   |                                                                                   |
|-----------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |
| エウソン氏（家員職人）                                                                       | インタビュアー調査の様子                                                                      |
|  |                                                                                   |
| 作業場の様子                                                                            |                                                                                   |

【インタビュアー結果】

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| ① 調査者氏名     | 林、北村                 |
| 回答者氏名       | エウソン・マルケス            |
| 普段の仕事の業種    | 家員職人（自営業）            |
| 所属名         | パシェッコ家員              |
| 所属先の従業員数    | 0 人                  |
| 所属先の業務・活動内容 | 家具（椅子、机、ベッド、網戸など）を作る |
| 職務          | 代表                   |

●インタビュアー④

- 小農家へアグロフォレストリーを指導し普及することで、農家を増やし、多角経営化を図り、人々の 生計を向上させていきたい。
- ケイラー氏はアストラゼネカ製のワクチンを接種した。周囲の人の多くがワクチンを接種している。 コロナで友人を失った。
- コロナ流行後は物価上昇で食料品価格が上昇した。農村部では多くの人が焼畑を行い、トウモロコシ などを植え始めた。コメも買うよりも植えた方が良く考えていた。

|                            |                     |
|----------------------------|---------------------|
| 所在地（都市名、島名等）               | パラートメアスー市クアトロボッカス地区 |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | —                   |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | —                   |
| ④ 年代か年齢                    | 61 歳                |
| ⑤ 性別                       | 男性                  |
| ⑥ 回答日                      | 2021 年 12 月 15 日    |

【エウソン氏からの回答内容】

- ・自営業で注文に応じて家具（椅子、机、網戸、ベッド等）を制作。
- ・コロナ感染症が流行る前と比べて、注文・需要は 40～50%増加した（仕事が休みになり、自宅に居る時間が増えたことで、新しい家具を購入したいという意識が高まったため。また国からの補助金で家具を買った人も多い）。
- ・製造量及び収入は 30%増加した。仕事が手一杯で、自分ができない箇所は友人の家具職人に頼んだ。
- ・入手しにくくなった林産品や部材は特にないが、原材料（木材、主としてマメ科のチンボラーナ（*Piptadenia suarezi*）を使用）の値段が 18,000 円/㎡から 26,000 円/㎡と約 14%上がった（輸送費やチェンソーの燃料費・部品の高騰により）。このため、販売価格を 20%上げた。結果的に、生計は 10%～15%ほど潤った。

- ・合板を使っている友人の家具職人は家具の引き出しに使う部品（中国産のベアリング）が不足した。
- ・トメアスー市ではコロナ流行後、商店等が 9 時～15 時までの短縮営業を行い、入店時のマスク着用やアルコール消毒を義務付けていた。ロックダウン時は洋服店や家電量販店が閉まったが、食料品店は短縮営業を行っていた。現在では一部の店舗や公証役場、大規模なイベント会場に入る場合はワクチン接種証明書の提示が必要である。
- ・コロナ流行により、仕事量は増え、悪影響はなかった。
- ・2019 年では 1 日あたりの生活費が約 2,000 円であったが、コロナ流行後の収入増加に伴い、2020 年では約 3,000 円に増加した。コロナ流行前は携帯電話の所有台数が家族で 1 台であったが、現在は 3 台である。鶏肉ばかりでなく、牛肉やビールも少しは買えるようになった。
- ・コロナ流行後は、普段から手洗いに気を付け、アルコールでしっかり消毒するようにした。また、来

客には使い捨てのお皿やコップを使うようにした（以前は普段使いの食器を使っていたが、コロナ感染防止のためプラスチック製の使い捨てのものに変えた）。

- ・周りでは少なくとも 50 人以上は、感染していると思われる（ほとんどの人が感染したと思われるが、PCR 検査をしてないから正確な感染者数はわからない）。6 人（友人 2 人、客 4 人）がコロナで亡くなった。
- ・コロナバックのワクチンを接種した。周りの人の約 95%がワクチンを接種していると思われる。
- ・マスクは家では使わないが（家族全員がワクチンを接種しているため）、外出時は常に着用している。周りの人の約 30%が病院や銀行への立ち入り、会議への参加の際（密集地に行く場合に）に着用している。
- ・コロナ流行後は規制により、商店等の営業時間が短縮され、自分が空いている時間に閉まっていたため、大変困った。
- ・得したことは、コロナ流行により家具の注文・需要が増えたことと、外出が制限され、在宅時間が増えた結果、家での勤務時間が増えたことである。
- ・コロナ流行後はアルコールを家の出入りに置き、テープを張るようにした（話をするだけに来る人が入れないように）。その結果、友人はあまり家に来なくなった。自分も他人の家や誕生日会等に行かないようにしている。お互いにコロナに感染しないように気を付けている。

●インタビュー⑤

日時：2021 年 12 月 16 日（木）、10 時～11 時

参加者：坂口氏、北村

方法：対面



坂口氏（アグロフォレストリー農家）



インタビュー調査の様子

【インタビュー結果】

|                            |                                                                               |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| ① 調査者氏名                    | 北村                                                                            |
| 回答者氏名                      | 坂口渡フランシスコ                                                                     |
| 普段の仕事の業種                   | 農業                                                                            |
| 所属名                        | -                                                                             |
| 所属先の従業員数                   | 2人                                                                            |
| 所属先の業務・活動内容                | バナナチップスやクッキー（バナジルナッツノキの種子を利用）の製造・販売、熱帯フルーツ（アサイー、ジャックフルーツ等）や野菜（キャッサバ芋等）の栽培・販売、 |
| 職務                         | 代表                                                                            |
| 所在地（都市名、島名等）               | パラ州トメアスー市                                                                     |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | 自分の所有地にある倒木（バクリーやウシノキ）を製材して家のリフォーム等を使う                                        |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | —                                                                             |
| ④ 年代か年齢                    | 62歳                                                                           |
| ⑤ 性別                       | 男性                                                                            |
| ⑥ 回答日                      | 2021年12月16日                                                                   |

【坂口氏からの回答内容】

- ・1970年代から父親（故・陸氏）と共にアグロフォレストリーを実践し、クラブウッド（*Carapa guianensis*）やゴムノキ、ブラジルナッツノキ、カカオ、アサイー、ジャックフルーツ、マンゴスチンなどの数十種類の農作物を栽培してきている。トメアスーの他の生産者の農地と比べて、坂口氏の農地は樹木が多く、外観は森林の様相を呈している。
- ・コロナ流行前と比べて農地に行く頻度・用事は増減せず、特に変わっていない。ただ、2020年3月以降に、コロナ感染防止の観点から、加工品（バナナチップス、ビスケット）の製造場を隣の農地（居住者なし）に移設し、従業員を1ヶ月間休職させ、製造を1ヶ月間停止したことはある。
- ・コロナ流行は収穫量に影響はないが、天候の影響でアサイーが40%増加した。
- ・コロナ流行は違法伐採には影響していないと思われる。アグロビジネスはブラジル経済と密接に関わっているため、違法伐採を止めるのは難しい。
- ・コロナ流行に関係なく、2019年に比べて2020年では加工品の注文数・製造量は約15%増加している

- る。コロナ流行に関係ないとのことであったが、異糧需要的な要素もあると思われる（インタビュー調査者の考え）。
- ・加工過程で入手しにくくなった材料はないが、製品を入れるプラスチック製の袋が200円から2000円と高くなった（主に石油高騰が影響していると思われ、コロナも少しは影響しているかもしれない）。また、インフレで食料品（小麦、サトウキビ、トウモロコシ、米、大豆、牛肉など）も高騰している。
- ・一時期自動車の運転が禁止され、食料品店や薬局以外のお店に入れなかった。トメアスーの大学や学校の多くはまだ休校している。規制による利益・不利益は特になかったが、経営のやり方が上手くなっただけに思う。
- ・生計は特に変わらない。
- ・私たちは政府に振り回されてばかりである。自由に外で飲食できないから、自宅にいるしかない。
- ・普段、生活・消費行動で変えたことはない。何も気にせず暮らしている。周りの人も特に気にせずコロナに感染しても堂々と歩いている（症状の軽い人は）。
- ・周りでコロナに感染したり、コロナで亡くなったたりした人がいるかどうかはわからない（本当にコロナかどうかはわからない。普通の風邪でもコロナと診断される場合があるため）。
- ・アストラゼネカ製のワクチンを接種した。周りの人の約90%が接種していると思われるが、未接種者は見たことがない。
- ・外出時は銀行や薬局以外では基本的にマスクは着用しない。自宅ではバナナチップスなどの加工時に着用する。着用しても徹底した消毒を行わない限り、雑菌が広がってしまうから意味がない。周りの人で普段から着用しているのは5%ぐらいである。学校や薬局、郵便局などに入る場合はしっかり着用している。
- ・一時期はアルコール消毒液を車の中に置いていたが、トメアスーは一年中暑く、危ないため、取り除いた。
- ・コロナ禍による規制で困ったことは、外食できなくなったことである。得たことは、外食できない分貯金できたことである。生活が変わったことは特にない。

●インタビュー⑥

日時：2021年12月17日（金）、10時～11時30分  
参加者：角田氏、北村





【インタビュー結果】

|                            |                                                                                                                                                                   |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 調査者氏名                    | 北村                                                                                                                                                                |
| 回答者氏名                      | 角田エメルソン                                                                                                                                                           |
| 普段の仕事の業種                   | 団体職員                                                                                                                                                              |
| 所属名                        | トメアスー農業協同組合                                                                                                                                                       |
| 所属先の従業員数                   | 180 人                                                                                                                                                             |
| 所属先の業務・活動内容                | 農協所有のジュース工場でコーディネーターとして原材料の調達を行う。シードオイル部門（クラブウッド（Carapa guianensis）、クブアスー（Theobroma grandiflorum）、パッションフルーツの種子から油を抽出）も担当し、受注先（Natura 社）への供給、種子の調達（カメター市まで）も行っている。 |
| 職務                         | コーディネーター                                                                                                                                                          |
| 所在地（都市名、島名等）               | パラ州トメアスー市                                                                                                                                                         |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | 個人所有の農地でアサイーやカカオ、アセロラを栽培している。                                                                                                                                     |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | トメアスー市                                                                                                                                                            |
| ④ 年代が年齢                    | 49 歳                                                                                                                                                              |
| ⑤ 性別                       | 男性                                                                                                                                                                |
| ⑥ 回答日                      | 2021 年 12 月 17 日                                                                                                                                                  |

【角田氏からの回答内容】

- ・コロナ流行前と比べて個人所有の農地へ行く頻度・用事は50%減少した（労働者から感染しないように）。労働者にはアルコールとマスクを着用するように徹底した。収穫時は労働者が病気で来なくて大変であった。14 日間ストップした。国からは補助金で出て一人当たり 12,000 円もらっていた。農業にはコロナはあまり影響していないと思われる。今年は乾季でも雨が多いため、灌水設備を使わずに済んでいる。
- ・トメアスー農協も一時期、1 ヶ月のうち 15 日仕事で、残り 15 日間休みであった（当時は誰もワクチン接種を受けていなかったため）。組合員でも一人重傷者がいた。
- ・トメアスー農協ではパンデミック（2020 年 3 月下旬）以後、6 月頃までは、1 ヶ月のうち 15 日仕事で、残り 15 日間休みであった（当時はワクチンがなく、感染予防対策で場内の人数を制限）。組合員でも一人重傷者がいた。
- ・2021 年 12 月にパラ州は州条例によってワクチン接種の強制力を高める措置を実施。これにより、一度も接種していない職員は、接種をしないことを理由に解雇をすることが可能となっている。
- ・2020 年 6 月頃は 3 日働いて、3 日休むという勤務状況であった。国からはその半分（3 日分）に対して補助金が出されたが、2021 年では補助額が 12,000 円/人から 6,000 円/人へと減少している（不利益）。
- ・収穫量（カカオ、アサイー、アセロラ）は 20%減少した（コロナによる労働力不足と気候のため）ことで、収入も減少した。
- ・違法伐採の増減はわからないが、コロナ前からトメアスーでは森林が減少し続けている。
- ・コロナの影響で材木の値段が 10,000 円から 30,000 円へと上がり、家を作るのが大変である。ディーゼルやガソリン価格も上昇し、肥料も 20,000 円/トンから 80,000 円/トンへと上がり、物価は上昇し、小農家は生活が苦しくなっている。
- ・トメアスー農協ではコロナ流行とは関係なく、販売先の Natura 社の需要が高く、シードオイルの注文が増加した。2019 年から 2021 年までで、クラブウッドは 36 トンから 42 トン、クブアスーは 24 トンから 50 トン、パッションフルーツは 1 トンから 4 トンへと増加した。しかしながら、実なりが悪などの原材料不足のため、これらの注文の半分ほどしか応じきれいない。クラブウッドはカメター市からも調達しているが、2020 年は量が少なかった。他方、2021 年は量が少なかったため、トメアスー市での調達が増えた。
- ・2021 年はトメアスーでのアサイーの生産量が多く、アサイー生産地のカメター市からはあまり購入していない。

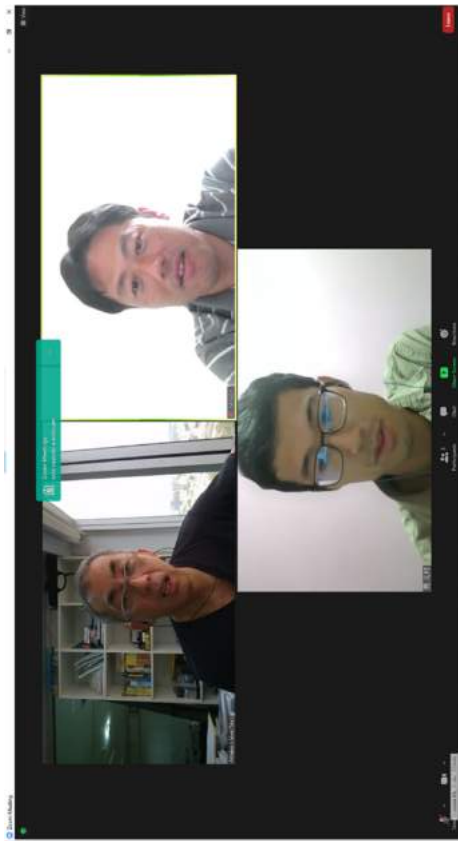
ン」でアブラヤシからバイオディーゼルの燃料を生産している。

●インタビュー⑦

日時：2021年12月20日（月）、11時～12時

参加者：島氏、林、北村

方法：Zoom を利用



図、島氏（左）へのインタビューの様子

【インタビュー結果】

|                            |                                                                     |
|----------------------------|---------------------------------------------------------------------|
| ① 調査者氏名                    | 林、北村                                                                |
| 回答者氏名                      | 島 準                                                                 |
| 普段の仕事の業種                   | 観光業                                                                 |
| 所属名                        | Amazon Travel Service (ATS) Viagens e Turismo Ltda.                 |
| 所属先の従業員数                   | 9人                                                                  |
| 所属先の業務・活動内容                | ブラジル政府公認オペレーターとしてインバウンド業務を行うほか、IATA 公認旅行代理店としてコーポレートチケットینگ業務全般を行う。 |
| 職務                         | 社長                                                                  |
| 所在地（都市名、島名等）               | アマゾナス州マナウス市                                                         |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | -                                                                   |

- ・コロナの影響で、製品用のビニール袋の値段が30～40%上がり、注文しても2～3ヵ月かかるようになり、入手しにくくなった。電気代・ガス代も上がり、種子専用の乾燥機の維持が難しくなっている。
- ・原材料の値段は特に変化していない。種子はトメアスー農協がジュース工場から購入している（2021年時点でクブアスーの種子：20円/kg、パッションフルーツ：6円/kg、クラブウッド：40円/kg）。
- ・ワクチン接種前はアルコール消毒やマスク着用をしっかりと行っていたが、接種後は気にせずあまり行っていない。
- ・周りでは30人が感染し、1人が亡くなった。おそらく日本人・日系人はほぼ全員感染したのではない。
- ・アストラゼネカ製のワクチンを接種した。周りの人の90%が接種している。トメアスー農協では一度も接種していない職員を辞めさせることができる。
- ・外出時は、スーパーや銀行、病院など人が多い場所でもマスクを着用するが、普段は着用しない（誰もがワクチン接種をしているから気にしない）。周りの人の50%が普段からマスクを着用している。
- ・2020年3月以降にベレン市に行ったとき、全てのレストランが閉まっていたため、大変困った。以後、弁当を持参するようになった。
- ・自宅の隣に淡水浴場があり以前は人が多かったが、コロナ流行後は少なくなり静かに過ごせる。
- ・生活が変わったことは特にない。
- ・農業で困ったことはあまりない。農業はストップしない。食べ物には困らない。それに比べて、スーパーやレストランなどの商業者は借金が多く、国からの補助金が出てもらえないため、経営に苦しんでいる人が多い。中には自殺する人もいる。
- ・最近トメアスーではコロナ感染者が増えてきている。
- ・最近雨が多いから山焼きの煙は少ない（山焼きはあまり行っていない）。誰も灌水設備を使わない。アサイーはよく生っているが、クブアスーはあまり生らない。肥料やトラクターの燃料代が上がっていることにより、新規開墾が減少していると思われる（コロナの間接的な影響がある）。
- ・アブラヤシの販売値段がコロナ流行前に比べて6,000円/トンから19,000円/トンに上がり、アブラヤシ生産者はより多くの収入を得ている。ヴィーラノーヴァという町にある企業では「オイルアブラ

|   |                   |             |
|---|-------------------|-------------|
| ③ | ②の場所が①と違う場合はその所在地 | -           |
| ④ | 年代が年齢             | 50代         |
| ⑤ | 性別                | 男性          |
| ⑥ | 回答日               | 2021年12月20日 |

【島氏からの回答内容】

- ・パラ州は森林資源に頼る傾向があるが、アマゾナス州は95%の森林資源が手つかずといわれ、未開発地が多く、森林資源に頼らない経済構造を有している。マナウス市は税制優遇地域で、300社以上の企業がある。人口200万人を超え、多くの雇用を生み出している。
- ・ネイチャーツアー、特にジャングルロッジツアーをメインに行っている。クルージングツアーもある。私有地で行うツアーがほとんどである。
- ・パンデミック下では人が動かなかった。ツアー企画者・受け入れ側、ボート所有者などの観光業を営んでいる人たちは、収入が減り、廃業をして、業種を変えたところが多いと思う。ツアーを行うには人の流れが大切である。止まれば、売り上げが落ちる。
- ・コロナ流行後は森林資源やインフラ、ジャングルロッジも未手入れで荒れている。ロッジ内は木材でできているため、傷みやすい。少しずつ動き出しているが、まだまだ元の状態には戻らない。
- ・ジャングルロッジツアーの受入先などでは観光が主要な収入源であり、コロナ流行後は観光客が来ない（収入がない）ことによって森林資源やインフラ面のメンテナンスも実施されず、かなり荒れている状況となっている。ロッジ内は木材でできているため、傷みやすい。
- ・コロナ流行後は1年〜1年半ほど赤字で、これまで職員3人を解雇した。2021年10月から仕事が入り始めたが、まだ少し不安定である。以前の業務量に少しずつ戻りつつある。最近ではブラジル南部から観光客が訪れるようになったので、会社の経営状況が改善してきている。
- ・コロナ流行後はやることがなく、カメラを使ってオンラインツアー（市場やネグロ川とソリモンイス川の合流地点等を撮影）を行っていたが、継続的な需要にはなかなかつながらない。ケニア（ナイロビ）のサファリツアーは市内から30分程度でサバンナの動物が見られるため継続的に実施ができていくようだが、このような環境は非常に稀である。なお、オンラインツアー実施当時は市内の市場などでは観光客は全く見られなかった。2021年10月以降から観光客が増え始めた。
- ・マナウス市はデルタ株発症の地といわれている。2021年1月はデルタ株感染者数が多く、大変深刻な状況であった。酸素ボンベの酸素が不足し、酸素吸入が必要な患者に酸素が行きわたらなかった。
- ・命を守るためにはワクチンを接種するしかない。接種後はいいかげんである。アマゾナス劇場や一部

のレストランではワクチン接種証明書の提示が求められる。

- ・1回目と2回目はアストラゼネカ製、3回目はファイザー製のワクチンを接種した。周りの人もかかっている。

●インタビュー⑧

日時：2021年12月21日（火）、14時〜15時

参加者：ビゾーホ氏、稲田氏（トメアスー文化農業振興協会専務理事）、北村

方法：対面

|                                                                                    |                                                                                   |
|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|  |  |
| ビゾーホ氏（アグロフォレストリー農家）                                                                | インタビュー調査の様子                                                                       |

【インタビュー結果】

|              |                                                                                                   |
|--------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ① 調査者氏名      | 稲田、北村                                                                                             |
| 回答者氏名        | ビゾーホ（オリズヴァウド・ボンベウ・ゴンサウヴェス）                                                                        |
| 普段の仕事の業種     | 農水産業                                                                                              |
| 所属名          | 自営業                                                                                               |
| 所属先の従業員数     | 0人                                                                                                |
| 所属先の業務・活動内容  | アグロフォレストリーを実践し、アサイーやカカオの収穫・販売、剪定、除草、除伐を行う。所有地周辺で魚を取り販売する。収穫したアサイーはカメラ市アサイー生産者協会を通してトメアスー農協等に流通する。 |
| 職務           | 代表                                                                                                |
| 所在地（都市名、島名等） | パラ州カメラ市カソン島                                                                                       |

|                            |                  |
|----------------------------|------------------|
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | 薪用に木を伐ったりする。     |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | -                |
| ④ 年代か年齢                    | 49 歳             |
| ⑤ 性別                       | 男性               |
| ⑥ 回答日                      | 2021 年 12 月 21 日 |

【ビゾーホ氏からの回答内容】

・コロナ流行前と比べて所有地内の森林（農地。アマゾン河支流のトカンチンス河下流域に位置し、潮汐の影響を受ける下流低湿地においてアサイーが主として自生しており、他樹種も 20～30%混交している）へ行く頻度・用事は特に増減していない。外出は避け、アサイーの収穫や手入れ（除草、除伐など）を続けた。アサイーやカカオなどの収穫量は特に変わらない。

・違法伐採の増減についてはわからない。

・コロナ流行の影響で物価が上昇し、食料品が高騰し、アサイーの値段が下がり（800 円/15kg が 400 円/15kg に）、生計が 20%厳しくなった。コロナ蔓延時は国からコロナ対策向けの補助金 (Auxilio da covid) を受け取っていた。現在は低所得者層向けの補助金 (Bolsa familia) を受け取っている。

・流行後は手売いに気を付け、アルコールやマスクを使うようにした。以前はあまり外出しなかったが、最近では外出し始めた。親戚やお客が家に来るのを断っていた。密集を避けるようにした。周りの人も同様である。親戚同士で SNS (Whatsapp) でグループを作り、コロナについて情報交換を行い、常に注意を払っていた。

・周りでは約 20 人がコロナに感染し、5 人が亡くなった。アストラゼネカ製のワクチンを接種した。周りの人の 90%が接種した。一度は接種するが、二回目は副作用の関係で嫌がる人が多い。オミクロン株が出て来てから、接種しようとする人が増えてきた。

・マスクは家では使わないが、外出時は常に着用し、ワクチン接種証明書を持参する。普段の移動手段はボートであるが、ボートに乗っているときからマスクを使う。カメター市では銀行やスーパーに入る際には接種証明書を提示する必要がある。周りの人の 100%が外出時にマスクを着用している。

・島では特に制限はなかった。2020 年 5 月頃に 1 週間の間、中心街ではスーパーや銀行で入場制限（1～5 人ずつ入れる）があったり、市場では 20 人まで乗れるボートで 20 人乗せると罰金が発生したりした（そのために多くのボートでは乗客数をその半分の 10 人に制限していた）。

・コロナ感染を恐れて、家にいる時間が長くなり、家族との時間が増えた。ボートの修理など遅れていた作業を進めることができた。

・今後カカオの植付け本数を増やしていきたいが、収穫物をどこに販売すればよいかわからない。

・収入の約 8 割がアサイーの販売によるため、カカオなどの他樹種もより多く植付けし、収入を安定させ、生計を向上させていく必要がある（調査者の考え）。

●インタビュー⑨

日時：2021 年 12 月 22 日（水）、10 時～11 時

参加者：プリモッチ氏、稲田氏（トメアスー文化農業振興協会専務理事）、北村

方法：対面

|                                                                                    |                                                                                   |             |
|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|-------------|
|  |  | インタビュー調査の様子 |
| プリモッチ氏（シードオイル生産農家）                                                                 |                                                                                   |             |
| カメター市市場のマスク着用の様子<br>（未着用の住民も見られる）                                                  |                                                                                   |             |

【インタビュー結果】

|          |                 |
|----------|-----------------|
| ① 調査者氏名  | 稲田、北村           |
| 回答者氏名    | プリモッチ（ジョージ・ヌネス） |
| 普段の仕事の業種 | シードオイル生産、農水産業   |
| 所属名      | 自営業             |
| 所属先の従業員数 | 0 人             |



|                            |                                                                                                                                                                                                                                                 |
|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 所属先の業務・活動内容                | 所有地内でクラブウッド（ <i>Carapa guianensis</i> ）、ウクウーバ（ <i>Virola surinamensis</i> ）、ムルムル（ <i>Astrocaryum murumuru</i> ）の種子を収穫し、クラブウッドの種子をトメアスー農協に販売する。アグロフォレストリーを実践し、アサイーの収穫・販売、管理（剪定、除草、除伐）を行う。所有地周辺で魚を取り販売する。収穫したアサイーはカメラ市アサイー生産者協会を通してトメアスー農協等に流通する。 |
| 職務                         | 代表                                                                                                                                                                                                                                              |
| 所在地（都市名、島名等）               | パラ州カメラ市ジューバ島                                                                                                                                                                                                                                    |
| ② 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | 薪用に木（クラブウッド等）を伐ったりする（ガスを節約できる）。                                                                                                                                                                                                                 |
| ③ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | -                                                                                                                                                                                                                                               |
| ④ 年代か年齢                    | 52 歳                                                                                                                                                                                                                                            |
| ⑤ 性別                       | 男性                                                                                                                                                                                                                                              |
| ⑥ 回答日                      | 2021 年 12 月 22 日                                                                                                                                                                                                                                |

【ブリモッチ氏からの回答内容】

- ・コロナ流行前と比べて、所有地の森林（農地。ビゾーホ氏と同様に主としてアサイーが多く自生しており、他樹種も 20～30%混交している）へ行く頻度・用事は 50%増加した（外出できなかったため、森林でもっと仕事をやるようになった）。
- ・シードオイルはコロナではなく気候（雨量）の影響で収穫量が 30%減少し、値段も良くなかった。
- ・クラブウッド（*Carapa guianensis*）については、森林内で落ちている種子及び周辺の住民の種子をまとめてトメアスー農協に販売する。ムルムル（*Astrocaryum murumuru*）やウクウーバ（*Virola surinamensis*）はビニールハウスでそれぞれ 15 日間、10 日間乾燥させて販売する。
- ・アサイーは収穫量が 30%増加し、値段も良かった。収穫期に外から人を呼んで収穫したかったが、コロナ流行でできないため、家族 6 人で行った。
- ・森林内で見える人（アサイーの手入れのため）は 50%増加したが、家に遊びに来る人が減少した。
- ・周りの島（低湿地）で違法伐採を行っている人は聞いたことがない。近所で炭を作る人がいるが、違法ではない。違法伐採が行われているのは、台地である。

- ・生計が 30%厳しくなった。節約傾向が強くなり、必要なものだけ買うようにした。
  - ・2020 年 5 月～11 月までコロナ感染症対策補助金 12,000 円/月を受給していた。現在は禁漁期間の補助金 96,000 円/年を受給している。
  - ・周りでは約 30 人がコロナに感染し、1 人が亡くなっている。手洗い、マスク着用、アルコール消毒を徹底するようにした。外出時は常にマスクを着用している。周りの人の 95%が着用している。
  - ・アストラゼネカ製のワクチンを接種した。周りの人の 95%が接種している。
  - ・スーパーや銀行の営業時間も短縮された。コロナ感染を恐れて買い物や銀行に行けず不便であった。得たことは特にならない。あまり外出しなかったため、労働時間が増加した。親戚で町には行かないようにした。船で行く際は乗客数を半分にして行った。
- インタビュー⑩
- 日時：2022 年 1 月 6 日（木）、15 時～16 時 30 分
- 参加者：ジョアン氏、その他職員、林、北村
- 方法：ズームを利用

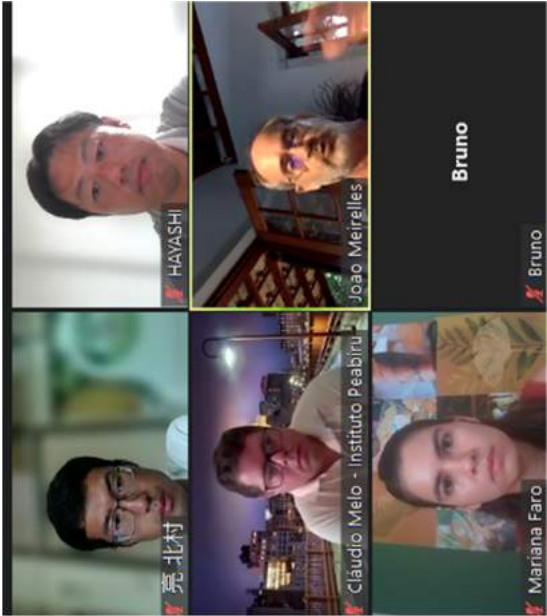


図. ジョアン氏（中央右）へのインタビューの様子

|                            |                                             |
|----------------------------|---------------------------------------------|
| ⑦ 調査者氏名                    | 林、北村                                        |
| 回答者氏名                      | ジョアン・メイレーレス                                 |
| 普段の仕事の業種                   | NGO 団体                                      |
| 所属名                        | ペアビル研究所                                     |
| 所属先の従業員数                   | —                                           |
| 所属先の業務・活動内容                | 自然保護や人権保障、農業支援、コロナ感染防止活動などをパラ州を中心に幅広く行っている。 |
| 職務                         | 代表                                          |
| 所在地（都市名、島名等）               | パラ州ベレン市                                     |
| ⑧ 関わる・知る森林や林産物等の分野や業務・活動内容 | —                                           |
| ⑨ ②の場所が①と違う場合はその所在地        | —                                           |
| ⑩ 年代か年齢                    | 50 代                                        |
| ⑪ 性別                       | 男性                                          |
| ⑫ 回答日                      | 2022 年 1 月 6 日                              |

【ジョアン氏からの回答内容】

- ・最近、注力している活動でアグロフォレストリー普及を含む小農家支援活動があるが、パンデミック当初は集会実施が難しかったが、2021 年は感染防止対策をした上での集会実施がスムーズにできるようになり、活動参加者も増えている。
- ・ベレン市のエミリオゴエルジ博物館（国立研究機関）と共同で森林分野の調査活動を実施していたが、コロナ流行後は政府からの資金が減少し、博物館が閉まってしまったため、活動継続が困難であった。森林分野における公的活動は財政難により大幅に停滞している。
- ・企業とのタイアップでマングローブの回復プロジェクトを実施している。漁業関係者を含む地域住民との保全・回復活動であるが、パンデミック当初は集会が難しかったが、最近では従来の活動頻度に戻ってきている。
- ・アマゾンにおける非木材林産物の採集活動支援を実施しているが、非木材林産物の経済規模は大きくない。このため、需要面でのコロナ影響は特になかった。また、採集活動に関しても、特に影響はなかった。
- ・企業とのタイアップでの社会活動にも力を入れているが、パンデミック後は、特にコロナ対策の観点

からの企業側社会活動に対する需要が強い（比較的規模の大きな企業からの支援。森林関係よりは純粋なパンデミックによる影響対策）。

- ・コロナ流行は違法伐採に影響を及ぼしているとは感じていない。しかしながら、パラ州では依然として森林伐採が深刻な状態であり、これは現政権の環境政策に起因する部分が大きいと考えている。